

15. BGM および効果音

試合中の BGM および効果音の使用は、認められる。ただし、主審・第2審判の笛、タイムキーパーが用いる音や笛の音をかき消したり、妨げたりしてはならず、また、競技者、交代要員、チーム役員や審判員間のコミュニケーションに差し障るようなことになってはならない。

第3条 競技者

4. 交代の進め方

(…)

- ペナルティーキック、フリーキックを行うために試合時間を延長した場合、守備側チームのゴールキーパーまたはファウルをされてキックを行う競技者が、反則がファウルであり、負傷のためにキックを行うことができない場合のみ交代することができる。

6. ゴールキーパーの入れ替え

(…)

- ゴールキーパーに入れ替わる競技者または交代要員は、自分自身の番号が背中についたゴールキーパーシャツを着用しなければならない。また、競技会規定は、フライング・ゴールキーパーとしてプレーする競技者が、本来のゴールキーパーとまったく同色のシャツを着用しなければならないと定めることができる。
- 競技者またはチーム役員は、ボールがアウトオブプレーで、再開が交代を要求したチームのゴールクリアランス、またはそのチームのペナルティーエリアから行われるキックインもしくはスローインの場合、ゴールキーパーの交代のために時計を止めることを主審に要求することができる。主審・第2審判は、既に4秒のカウントを開始していたならば、交代が要求されたときにカウントを止めたところから、再開をする競技者に何秒残っているのかを知らせ、カウントを継続する。

13. ピッチから出る（認められない）

競技者が、ビーチサッカー競技規則では認められてない理由により、主審・第2審判のいずれかによる承認なくピッチから出た場合、アドバンテージが適用されない状況であれば、タイムキーパーまたは第3審判が、音による合図で主審・第2審判に伝える。プレーを停止する必要がある場合、主審・第2審判はプレーを停止し、反則を行った競技者を罰し、相手チームにプレーが停止されたときにボールがあった位置またはピッチの中央から行われるフリーキックを与え、反則を行ったチームを罰する。アドバンテージが適用される状況であれば、タイムキーパーまたは第3審判は次にボールがアウトオブプレーになったとき、音による合図で知らせなければならない。競技者は、主審・第2審判の承認を得ることなくピッチを離れたことで警告される。

第5条 主審・第2審判

3. 職権と任務

(…)

主審・第2審判は、

(…)

- ・ 競技者が重傷を負ったと判断した場合、プレーを停止し、確実に競技者をピッチから退出させる。負傷した競技者は、ゴールキーパーを含め、ピッチ内で治療を受けることはできず、境界線の最も近い地点からピッチを離れ、プレーが再開された後のみ、ピッチに戻ることができ、競技者は交代ゾーンからピッチに入らなければならない。競技者は、砂を洗い流すために水を受け取る場合も治療と考えられ、ピッチを離れなければならない。ピッチから退出を求められないのは、次の場合に限られる。
 - 競技者の目に砂が入ったとき、競技者は目を洗うために水を使用することができ、ピッチ上の競技者の手助けを受けることができる。ただし、交代要員またはメディカルスタッフによる手助けは認められない。すばやく再開のため、ゴールの後方に水のボトルを置いて良い。
 - ・ 相手競技者が警告される、または退場を命じられるような体を用いた反則（例えば、無謀な、または著しく不正なファウルとなるチャレンジ）の結果として競技者が負傷し、負傷の程度の判断と治療がすばやく完了できるとき。
 - ・ フリーキックまたはペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者がキッカーになったとき。
 - ・ フリーキックまたはペナルティーキックが与えられ、負傷した競技者が守備側チームのゴールキーパーになったとき。
 - ・ 同じチームの競技者が衝突し、対応が必要なとき。
 - ・ 重篤な負傷が発生したとき。
 - 主審・第2審判が罰則を与えるファウルにより競技者が負傷したとき。この場合、競技者は、フリーキックまたはペナルティーキックを行わなければならない。競技者が重傷を負ってキックを行うことができない場合、
 - 競技者は反則があったときにチームベンチにいた味方競技者と入れ代わらなければならない。この交代要員がキックを行わなければならない。
 - ゴールキーパーは、重傷を負ってフリーキックやペナルティーキックを行うことができない場合、他のゴールキーパーと入れ代わらなければならない。チームは、他のゴールキーパーがいない場合のみ、他の交代要員と入れ代えることができる。
 - フリーキックやペナルティーキックを回避するために重傷を負ったふりをした競技者は、反スポーツ的行為により警告されなければならない。
- ・ (…)

第8条 プレーの開始および再開

1. キックオフ

(…)

反則と罰則

- ・ 他の競技者がボールに触れる前にキックを行った競技者がボールに再び触れた場合、フリーキックが与えられ、次の位置から行われる。
 - ・ 反則があったときにボールが相手チームのピッチ内にあった場合、プレーを停止したときにボールがあった位置から。
 - ・ 反則があったときにボールが自分のチームのピッチ内にあった場合、ピッチの中央から。

ハンドの反則によって与えられるフリーキックは、反則の位置から行われる。

守備側チームの競技者がボールから規定の距離を守らず、得点とならなかった場合、反則した競技者は警告され、キックオフは再び行われる。

- ・ ボールがインプレーになる前に、(キッカーを除く) 攻撃側チームの競技者がピッチの相手ハーフに侵入し、明らかにキックに影響を与えた、またはキックが行われた後にボールにプレーする、もしくはボールに向かう相手競技者にチャレンジした場合、
 - ・ 守備側チームに、反則した競技者がピッチの相手ハーフに入った位置から行われるフリーキックが与えられる。
 - ・ 守備側チームの競技者と攻撃側チームの競技者が同時に反則を行った場合、キックオフは再び行われる。
- ・

懲戒措置は、とられない。

- ・ ボールがインプレーになる前に、(キッカーを除く) 攻撃側チームの競技者がピッチの相手ハーフに侵入し、キックまたはキックの直後のプレーに影響を与えなかった場合、
 - ・ ボールがゴールに入った場合、得点が認められる。
 - ・ ボールがゴールに入らなかった場合、プレーは続けられる。

キックオフの進め方に対して、その他の反則があった場合、キックオフを再び行う。

反則	キックオフの結果		
	ボールがゴールに入る	ボールがゴールに入らない	再開の位置
キッカーによる反則 (2度触り)	守備側チームの フリーキック	守備側チームの フリーキック	ピッチの中央 または反則が 行われた場所
キッカー以外の攻撃側 チームの競技者による 反則 (相手ハーフに入る)	キックオフ は再び行われる、反則 を行った競技者を警告 影響あり：守備側 チームのフリーキック 影響なし：得点	キックオフ は再び行われる、反則 を行った競技者を警告 影響あり：守備側 チームのフリーキック 影響なし：プレーを続 ける	反則が行われた場所
守備側チームの競技者 による反則 (ボールか ら規定の距離を離れな い)	得点	キックオフは再び行わ れる、反則を行った競 技者を警告	—
同時に攻撃側チームの 競技者と守備側チーム の競技者が反則	影響あり (攻撃側競技 者)：キックオフは再び 行われる、反則を行っ た両方の競技者を警告 影響なし (攻撃側競技 者)：得点	影響あり (攻撃側競技 者)：キックオフは再び 行われる、反則を行っ た両方の競技者を警告 影響なし (攻撃側競技 者)：キックオフは再び 行われる、反則を行っ た競技者を警告	—

2. ドロップボール

- 次の状況でプレーが停止された場合、ボールはペナルティーエリア内で守備側チームのゴールキーパーにドロップされる。
 - ボールがペナルティーエリア内にあった。または、
 - ボールが最後に触れられたのがペナルティーエリア内であった。
- その他のすべてのケースにおいて、主審・第2審判のいずれかは、ボールが最後に競技者、外的要因または審判員に触れた位置で、最後にボールに触れたチームの競技者の1人にボールをドロップする。
 - ・ プレーが停止されたとき、
 - ・ ボールがペナルティーエリア内にあった場合、主審・第2審判のいずれかが、ペナルティーエリアの中央で守備側チームのゴールキーパーにボールをドロップする。
 - ・ ボールがペナルティーエリア外にあった場合、主審・第2審判のいずれかが、ボールを保持していたチーム、または保持したであろうチームを主審・第2審判が判断できれば、そのチームの競技者の1人にボールをドロップする。もしそうでなければ、最後にボールに触れたチームの競技者の1人にボールはドロップされる。ボールはプレーが停止されたときにボールがあった位置にドロップされる。
 - ・ (両チームの) 他のすべての競技者は、ボールがインプレーになるまで少なくとも2m ボールから離れていなければならない。
 - ・ ボールがピッチに触れたときにインプレーとなる。

第9条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー

2. ボールインプレー

ボールは、(…)ピッチ内にある場合も常にインプレーである。

チーム役員、交代要員、退場になった競技者、または一時的に（負傷、用具を直すためなどで）ピッチから離れている競技者が、不正に妨害しようとする意図なく、明らかにピッチから出ようとしているが、依然インプレー中のボールに触れた場合、（ボールがピッチの反則をしたチームのハーフで触れられた場合）ピッチの中央、または（ボールがピッチの相手ハーフで触れられた場合）反則の位置から行われるフリーキックが与えられるが、懲戒の罰則は与えられない。

第12条 ファウルと不正行為

3. 仮想のパナルティーマークから守備側チームのフリーキックで罰せられる反則

競技者が相手のパナルティーエリア内で反則を行った場合、反則が行われたパナルティーエリアの仮想のパナルティーマークから行われるフリーキックが守備側チームに与えられる。

4. 懲戒処置

(…)

警告となる反則

競技者は、次の場合、警告される。

(…)

- ・ 次の方法でプレーが再開されるときに規定の距離を守らない。
 - ・ ドロップボール、コーナーキック、キックオフまたはキックインもしくはスローイン
 - ・ キックオフ（得点とならなかった場合、守備側チームの競技者のみ）
 - ・ フリーキック（プレーに影響を与えた場合、守備側チームの競技者のみ）
- ・ ~~自分のチームのキックオフが行われるとき、ボールがインプレーになる前に相手競技者のハーフに入る（キックオフを行う競技者を除く）。~~
- ・ (…)

別々に2つの警告となる反則が起きたならば（2つが近接している場合であっても）、2つの警告となる反則が行われたとすべきである。例えば、競技者が交代ゾーンを用いずピッチに入り、無謀なタックルをする、またはファウルやハンドの反則などで相手の大きなチャンスとなる攻撃を阻止した場合である。

第13条 フリーキック

2. 進め方

- ・ 競技者は、壁をつくれない。
- ・ フリーキックは、反則が行われた時にピッチにいたいずれかの競技者によって行われる。
- ・ フリーキックを行う競技者は、明らかに特定されなければならない。
- ・ ~~反則がファウルであった場合、ファウルを受けた競技者がキックを行わなければならない。ただし、その競技者が重傷を負った場合、ファウルを受けた競技者と交代した交代要員がキックを行わなければならない。~~
- ・ ~~例えばハンドの反則のように、反則がファウルでなかった場合、キックを行うチームの競技者または交代要員の誰でもがフリーキックを行うことができる。~~

(…)

3. フリーキックのときの位置

自分のハーフ内またはピッチの中央から行われるフリーキックの進め方

- ・ ボールが相手のゴール方向にけられた場合、ボールと両コーナーフラッグを結ぶエリア内では、ボールが空中にある間、またはその後ゴールポストもしくはクロスバーに当たるまでは、守備側チームのゴールキーパーだけがボールに触れることができる。つまり、ボールがこのエリアから出た（再びこのエリア内に入ったとしても）、またはグラウンド、守備側ゴールキーパー、ゴールポストもしくはクロスバーに触れたならば、この制限は適用されなくなり、どの競技者でもボールに触れる、プレーすることができることになる。
- ・ ~~フリーキックが自分のペナルティーエリア内で行われる場合、~~
 - ・ ~~ボールはけられて明らかに動いたときにインプレーとなる。~~
 - ・ ~~すべての相手競技者は、ボールがインプレーになるまでペナルティーエリアの外にいないなければならない。~~

(…)

5. 要約表

(…)

主審・第2審判が笛を吹き、ボールがインプレーになった後の反則

(ボールと両コーナーフラッグを結ぶエリアでボールがグラウンド、ゴールポスト、クロスバーもしくはゴールキーパーに触れる前にボールに触れるまたはボールをプレーする)

反則	フリーキックの結果		
	ボールがゴールに入る	ボールがゴールに入らない	再開の位置
攻撃側チームの競技者による反則	守備側チームのフリーキック	守備側チームのフリーキック	ピッチの中央または反則が行われた場所
守備側チームの競技者による反則	得点	攻撃側チームのフリーキック または ペナルティーキック	反則が行われた場所 または仮想の <u>ペナルティーマーク</u>
守備側チームの競技者および 攻撃側チームの競技者が同時に反則を行う	フリーキックは再び行われる	フリーキックは再び行われる	—

第14条 ペナルティーキック

1. 進め方

ボールは、仮想のペナルティーマーク上で静止していなければならない。

ペナルティーキックを行う競技者は、次のとおりでなければならない。

- ・ 反則が行われたときにピッチにいた。
- ・ 明らかに特定される。
- ・ ~~反則がファウルであった場合、ファウルを受けた競技者が重傷を負っていなければ、その競技者となる。その競技者が重傷を負っていた場合、キックは反則を受けた競技者に代わった交代要員が行う。ただし、ハンドの反則のように、反則がファウルでなかった場合、キックを行うチームのどの競技者または交代要員であってもペナルティーキックを行うことができる。~~

第15条 キックイン/スローイン

2. 反則と罰則

(…)

キッカーもしくはスローワーを不正に惑わせる、または遅らせる（キックインまたはスローインが行われる地点から 5m 以内に近寄ることを含む）相手競技者は、反スポーツ的行為で警告される。キックインまたはスローインが既に行われていた場合、守備側キックインまたはスローインを行うチームのハーフ内で反則が行われた場合は反則があった場所から、自分の反則を行ったチームのハーフ内で反則が行われた場合はピッチの中央から行われるフリーキックが与えられる。

(…)

タイムレビューシステムの実施手順

2. 実施

(…)

1. 原則として、カメラは、ピッチ全体、メインの時計、ゴール、両方のペナルティーエリアをカバーできるように設置されるべきである。このため、少なくとも4台のカメラが必要になる。これらは、各ペナルティーエリア用（それぞれのゴールラインを含む）に1台ずつ、メインの時計用に1台、またピッチ全体用に1台であるピッチ全体およびメインの時計をカバーする1台のカメラが使用されなければならない、各ペナルティーエリア用（それぞれのゴールラインにゴールラインをフォーカスできるカメラを含む）に1台ずつ、設置することが推奨される。

ビデオサポートの実施手順

3. 実施

(…)

1. 原則として、カメラは、ピッチ全体、メインの時計、ゴール、両方のペナルティーエリアをカバーできるように設置されるべきである。このため、少なくとも4台のカメラが必要になる。これらは、各ペナルティーエリア用（それぞれのゴールラインを含む）に1台ずつ、メインの時計用に1台、またピッチ全体用に1台であるピッチ全体をカバーする1台のカメラが使用されなければならない、各ペナルティーエリア用（それぞれのゴールラインにゴールラインをフォーカスできるカメラを含む）に1台ずつ、メインの時計用に1台設置することが推奨される。

4. 進め方

(…)

最終の判定と再開

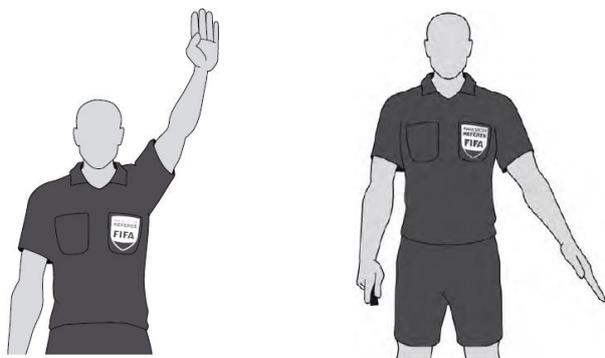
1. 主審が唯一最終の判定を下す者である。
2. RR が完了したら、主審は、TV シグナルを表示し、タイムキーパー・テーブルの前で最終の判定を伝えなければならない。また、必要に応じて、両チームの監督にも伝える。競技会は、更に、主審がRRに引き続いて判定を公に説明、アナウンスするシステムを導入することができる。

(…)

ビーチサッカー審判員のための実践的ガイドライン

シグナル

2. 主審・第2 審判の両方が示すシグナル



ゴールキーパーへの1回目のパス

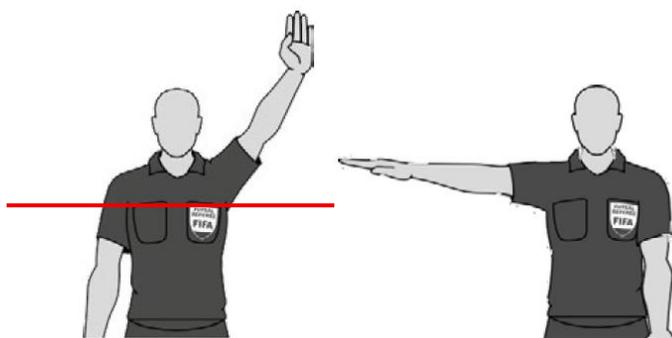
(ステップ1)

(ステップ2—指を1本)

3. 副審によるシグナル

(…)

第3 審判または第4 審判は、攻撃側チームのゴールラインを監視しているときに得点があった後、シグナルをする。



ステップ1

ステップ2

第3 審判または第4 審判は、自分のペナルティーエリアの外で、ゴールキーパーが手や腕でボールに触れたときにシグナルをする。



ポジショニング

1. ボールがインプレー中のポジショニング

求められるポジショニング

- ・ プレーは、主審と第2 審判がはさんで監視すべきである。
- ・ 主審・第2 審判は、対角線式審判法を活用すべきである。
- ・ 第3 審判および第4 審判（割り当てられている場合）は、主審・第2 審判がプレーに集中できるように、ピッチのアクションエリアの反対のハーフのゴールラインおよび仮想のペナルティーエリアラインをチェックして主審・第2 審判を援助する。
- ・ (…)

3. ゴールキーパーがボールをリリースする

第4 審判が割り当てられていない場合、第3 審判または主審・第2 審判のいずれかがペナルティーエリアのラインのところにポジションをとる。その審判が、ゴールキーパーがボールを保持している秒数をカウントしながら、ペナルティーエリア外で手や腕でボールに触れないか、またはボールをプレーしたのちゴールキーパーが2度ボールに触れないかをチェックする。

ゴールクリアランスが行われるときも、主審・第2 審判のいずれかがまたは第3 審判はこれと同様のポジションをとるべきである。ゴールキーパーが自分自身のペナルティーエリア内にいるときに4秒のカウントをスタートする。ゴールキーパーがプレーの再開を遅らせるために自分自身のペナルティーエリア内に入らない場合、警告されることがある。

ゴールキーパーがボールをリリースした後、主審・第2 審判は、試合の流れに応じて適切なポジションをとる。

第4 審判が割り当てられている場合、第3 審判または第4 審判はペナルティーエリアのラインのところにポジションをとり、ゴールキーパーがペナルティーエリア外で手や腕でボールに触れないか、またはボールをプレーしたのち2度ボールに触れないかをチェックしなければならない。

4. 「得点か得点ではないか」の状況

(…)

チームがフライング・ゴールキーパーを用いてプレー（パワープレー）しているとき、第3 審判または第4 審判（割り当てられている場合）は、得点か得点ではないかの判断のためにより良い視野を確保するよう、フライング・ゴールキーパーを用いているチームピッチのアクションエリアの反対のハーフのゴールライン上にポジションをとってピッチ上の主審・第2 審判を援助すべきである。

6. ビデオサポート（VS）が用いられているときのゴールラインを外したポジショニング

VS が用いられている試合で、ペナルティーキック、フリーキック、キックオフまたはコーナーキック、もしくはPK戦（ペナルティーシュートアウト）などで、審判員が、ボールがゴールに入るかどうかを確認するための位置をとる場合、VS カメラの視界、特にゴールラインの視界を妨害しないように、ゴールラインから離れて立つべきである。

67. プレーの開始や再開におけるポジショニング

1. キックオフ (1)

(…)

キックオフのときに競技者が反則を行ったことについて第3審判から伝えられる指示についても注意し、キックオフを行う笛を吹く。

第4審判が割り当てられていない場合、第3審判は、仮想のハーフウェーラインのレベルに位置し、ボールが正しく置かれているかについて主審・第2審判を援助する。また、(キッカーを除く)すべての競技者がピッチの自分のハーフ内に留まるようにする。第3審判はキックオフを行うチームの反則があった場合、腕を上げる。進め方が適切でなかった場合、タイムキーパーは時計を進めることなく、ただちに音で合図し、キックオフが再び行われなければならないことを主審・第2審判に知らせる。

第4審判が割り当てられている場合、第3審判または第4審判は、仮想のハーフウェーラインのレベルに位置し、上記の内容について主審・第2審判を援助する。もう一方の第3審判または第4審判は、カウンターアタックのときに主審・第2審判を援助できるように、キックオフを行うチームのパナルティーエリアのところにポジションをとる。

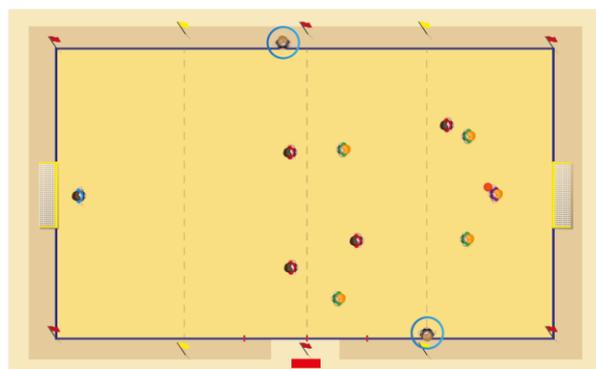
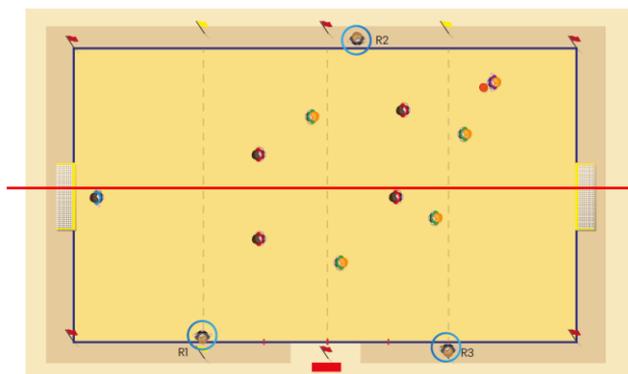
3. ゴールクリアランス (1)

(…)

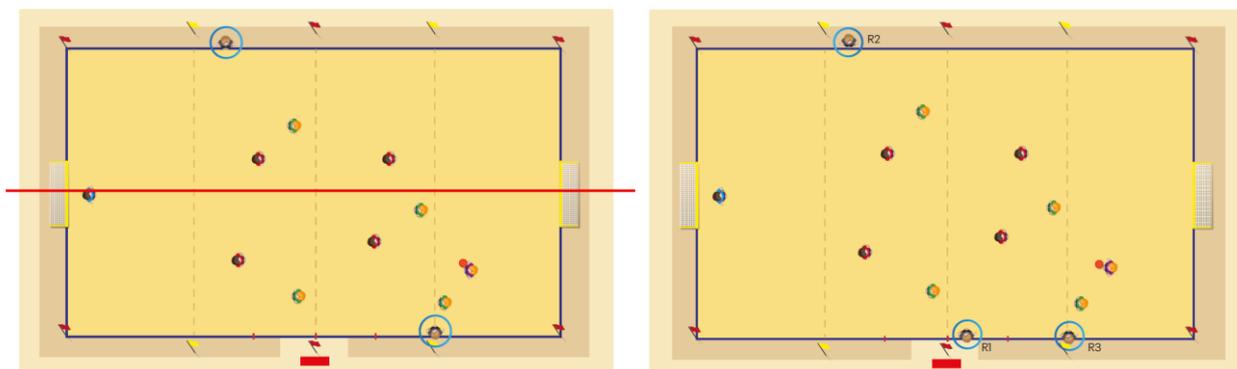
ゴールクリアランスをするチームが、時計を止める要求をすることなくゴールキーパーの交代を行おうとした場合、主審・第2審判のいずれかは、ボールがパナルティーエリア内にあるかどうかにかかわらず、笛を吹いて、4秒のカウントを開始する。パナルティーエリア内ピッチにボールがない場合、第3審判副審のいずれかまたはボールパーソンが速やかにパナルティーエリア内にボールを投げ入れる。

ボールがパナルティーエリア内にあった場合、主審・第2審判のいずれかが、パナルティーエリアのラインのところにポジションをとらなければならない。ゴールキーパーがゴールクリアランスを行う準備ができているかどうか、また、相手チームの競技者がパナルティーエリア外にいることをチェックする。ポジションをとった後、主審・第2審判は4秒のカウントの合図を行う。ただし、前述の状況で4秒のカウントを始めている場合を除く。ゴールキーパーがボールを投げたまたはリリースした後、主審・第2審判がプレーを追うためにピッチの中央および相手のハーフに移動できるように、第3審判および第4審判(割り当てられている場合)は、パナルティーエリアのラインのところにポジションをとり、主審・第2審判を援助することができる。

(…)



4. ゴールクリアランス (2)

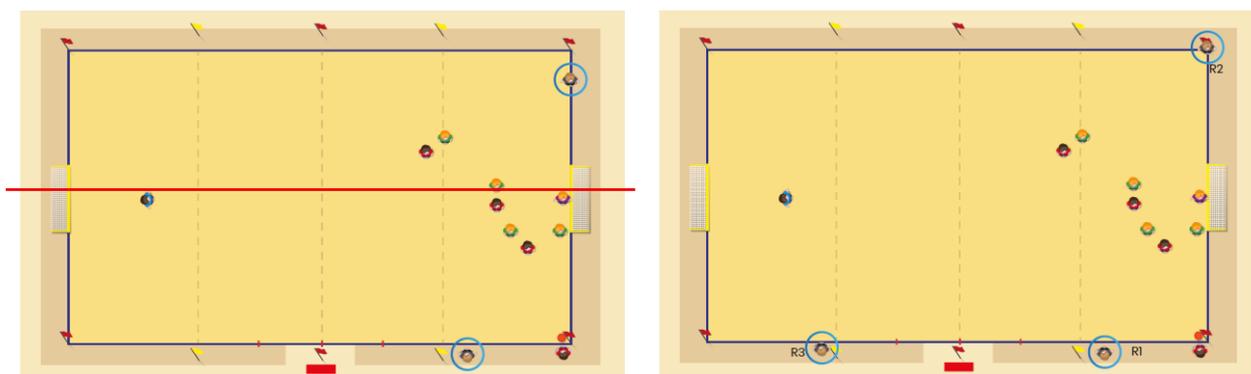


5. コーナーキック (1)

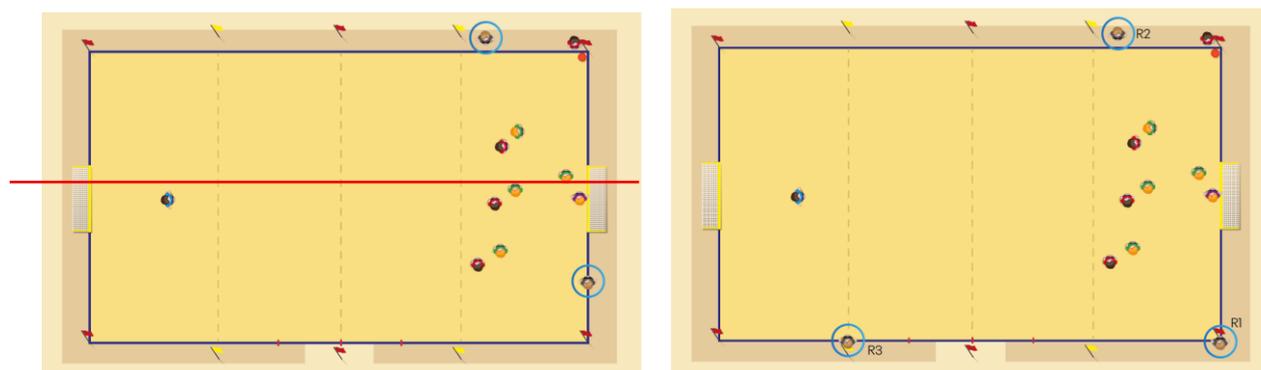
コーナーキックのとき、キックの位置により近い主審・第2 審判が、キックが行われる仮定のコーナーアークから 6-8m の距離のタッチライン上にポジションをとる。このポジションをとった審判は、ボールがコーナーエリア内に正しく置かれているか、守備側チームの競技者が仮定のコーナーアークから少なくとも 5m 離れているかどうかをチェックしなければならない。

第4 審判が割り当てられていない場合、もう一方の主審・第2 審判は、同じハーフの反対サイドで、タッチラインとゴールラインの交点のところにポジションをとる。このポジションをとった審判は、ボールおよび競技者の行動を監視する。

第4 審判が割り当てられている場合、副審のいずれかが反対のサイドの同じハーフで、タッチラインとゴールラインの交点のところにポジションをとる。このポジションをとった副審は、ボールおよび競技者の行動を監視する。主審・第2 審判のいずれかが、仮定のペナルティーエリアラインとゴールラインの間にポジションをとる。もう一方の審判が仮定のペナルティーエリアラインの近くにポジションをとる。この位置から、主審・第2 審判の両方は、競技者の行動を監視する。



6. コーナーキック (2)

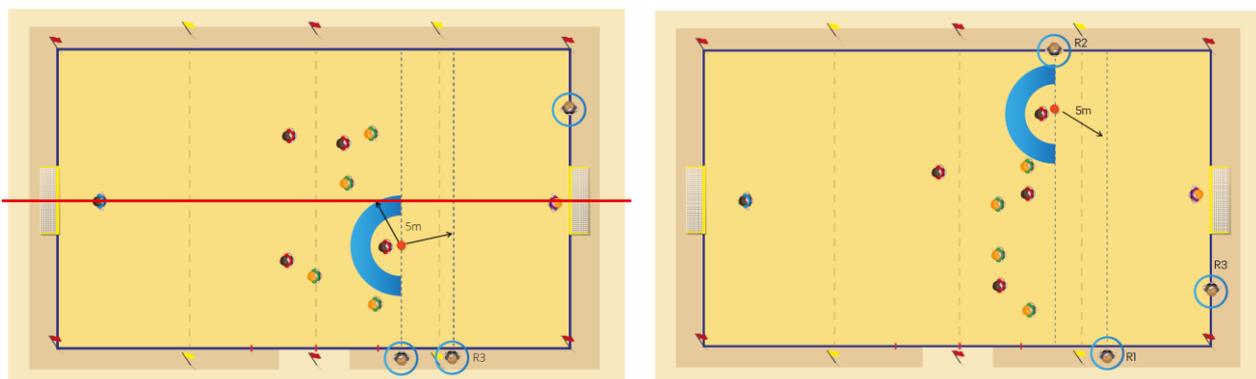


7. 相手チームのハーフ内でのフリーキック

相手競技者のハーフ内でフリーキックを行うとき、より近い方の主審・第2審判のいずれかが、フリーキックを行う場所の延長線上にポジションをとり、ボールが正しく置かれていることチェックすると共にフリーキックを行うときの競技者の侵入を監視する。もう一方の審判は、守備側チームのペナルティーエリアのところにポジションをとる。第3審判または第4審判（割り当てられている場合）は、ゴールライン上にポジションをとらなければならない。これは、すべての場合において優先されることである。主審・第2審判の両方すべての審判員は、ボールの行方を追えるよう準備しておかなければならない。

フリーキックが仮想のペナルティーエリアのラインから5m以内で行われる場合、第3審判は主審・第2審判のいずれかが、守備側チームのゴールキーパーの侵入を監視するために、タッチライン上にいる主審・第2審判の位置からタッチライン上で、キックが行われる位置から守備側チームのゴールの方向に向かって5m離れたところにポジションをとる。

第4審判が割り当てられている場合、副審のいずれかがフリーキックを行うチームのペナルティーエリアのところにポジションをとる。



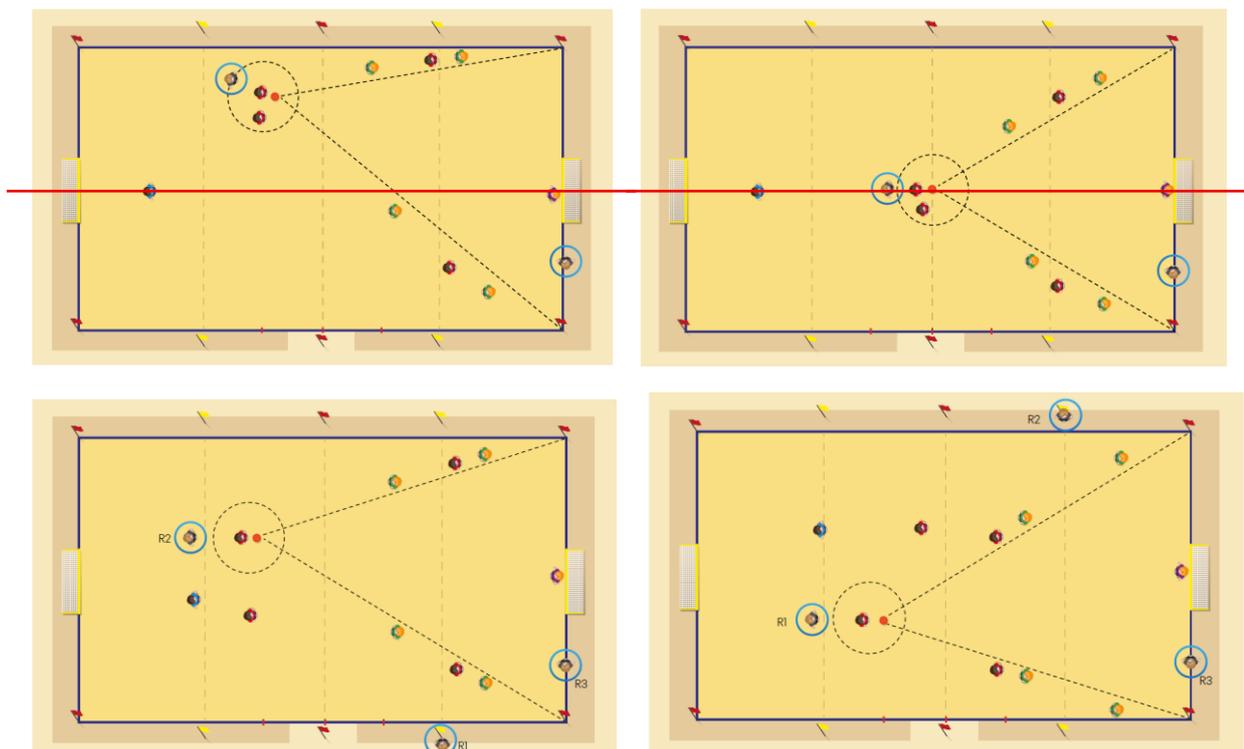
8. 自分のハーフ内またはピッチの中央から行われるフリーキック

自分のチームのハーフ内またはピッチの中央からフリーキックが行われるとき、フリーキックの場所により近い方の主審・第2審判のいずれかが、まずボールの前に立ち、守備側競技者がボールから少なくとも5m離れるようにする。また、ボールとコーナーフラッグで結ぶ仮想のエリア内に競技者がいないようにする。さらに、ボールとコーナーフラッグで結ぶ仮想のエリア内にキッカーの味方競技者が入らないように、また、ボールが正しく置かれるようにしなければならない。この審判がこれらの確認を済ませたのち、キックを行う競技者を邪魔することなく、ボールの後方へ移動し、笛を吹いてフリーキックを行うよう合図すると共に、フリーキックを行うよう命じた後に、（フリーキックを行う前、後にかかわらず）反則が行われたならば、笛を吹いて知らせる。

もう一方の審判は守備側チームのペナルティーエリアのところにポジションをとる。

もう一方の主審・第2審判第3審判または第4審判（割り当てられている場合）は、ゴールライン上にポジションをとらなければならない。これは、すべての場合において優先されることである。主審・第2審判の両方すべての審判員は、ボールの行方を追えるよう準備しておかなければならない。

第4審判が割り当てられている場合、副審のいずれかはフリーキックを行うチームのペナルティーエリアのところにポジションをとる。



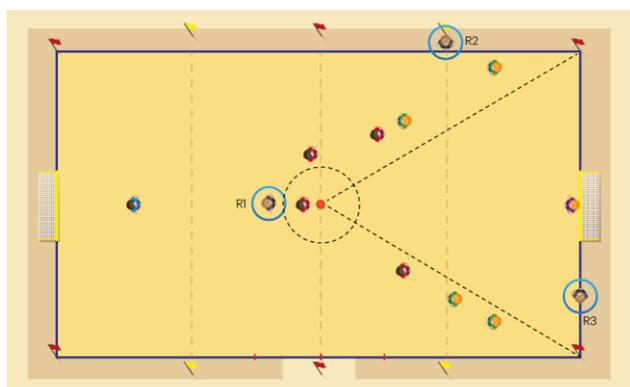
9. ピッチの中央から行われるフリーキック

ピッチの中央からフリーキックが行われるとき、主審は、まずボールの前に立ち、守備側競技者がボールから少なくとも5m離れるようにする。また、ボールとコーナーフラッグで結ぶ仮想のエリア内に競技者がいないようにする。さらに、ボールとコーナーフラッグで結ぶ仮想のエリア内にキッカーの味方競技者が入らないように、また、ボールが正しく置かれるようにしなければならない。主審がこれらの確認を済ませたのち、キックを行う競技者を邪魔することなく、ボールの後方へ移動し、笛を吹いてフリーキックを行うよう合図する。また、フリーキックを行うよう命じた後に（フリーキックが行われる前、後にかかわらず）反則が行われたならば、笛を吹いて知らせる。

第2審判は守備側チームのペナルティーエリアのところで、チームベンチと反対サイドにポジションをとる。

第3審判または第4審判（割り当てられている場合）は、ゴールラインにポジションをとらなければならない。すべての審判員は、ボールの行方を追えるよう準備しておかなければならない。

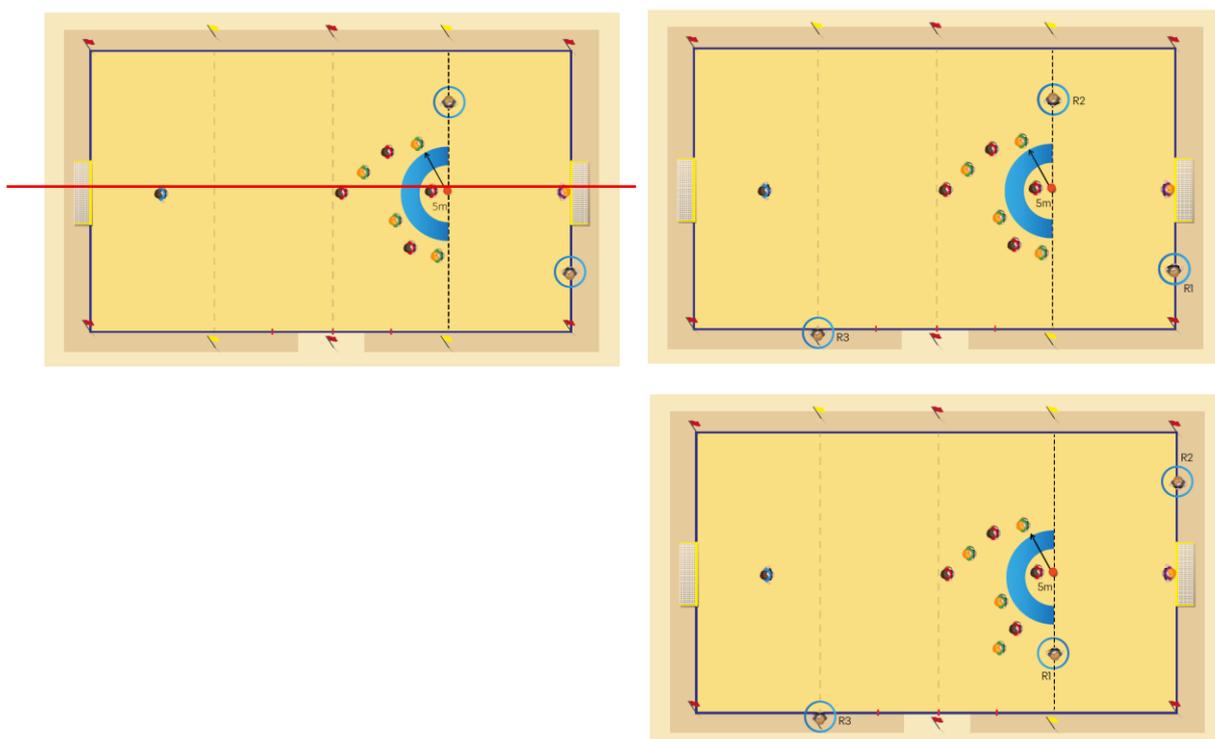
第4審判が割り当てられている場合、副審のいずれかはフリーキックを行うチームのペナルティーエリアのところにポジションをとる。



910. ペナルティーキック

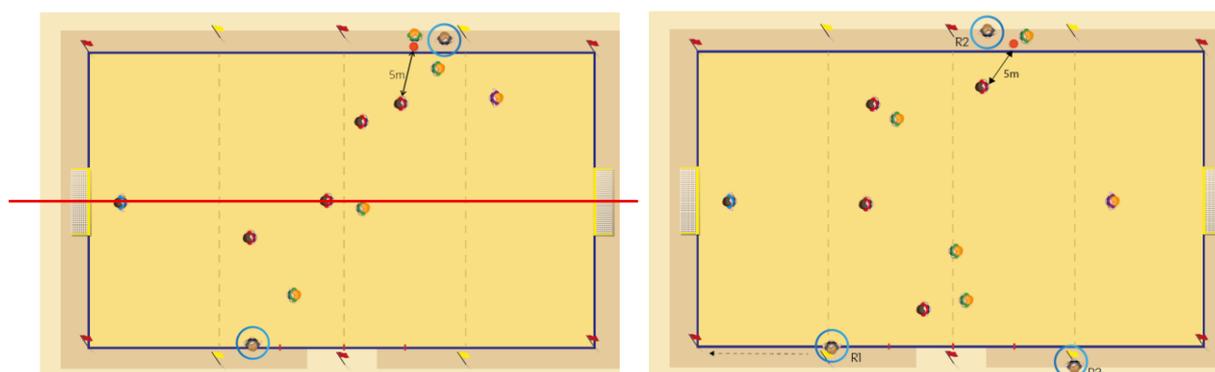
主審・第2審判のいずれかが仮想ペナルティマークの延長線上にポジションをとり、ボールが正しく置かれているかをチェックする。また、キッカーを特定し、キックを行うときに競技者が侵入するかどうかを監視する。この位置にポジションをとった審判は、すべての競技者の位置が正しいことを確認するまでキックを命じず、必要があればもう一方の審判の援助を受ける。

もう一方の審判はゴールライン上にポジションをとらなければならない。ボールがゴールに入ったのかどうかをチェックする。キックが行われる前に守備側ゴールキーパーが第14条に規定されている要件を守らず、ボールがゴールに入らなかった場合、ゴールライン上に位置する審判は、手を上げて、もう一方の主審・第2審判は、笛を吹いてペナルティーキックを再び行うよう命じるべきである。

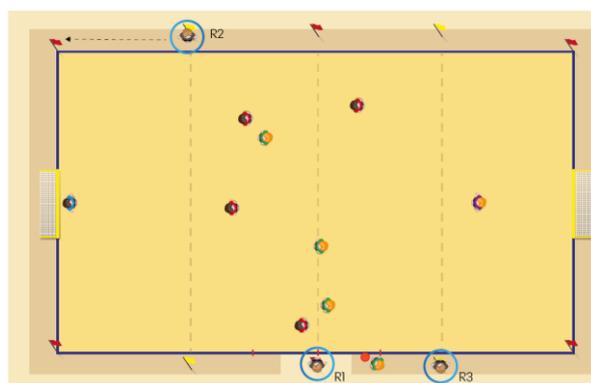
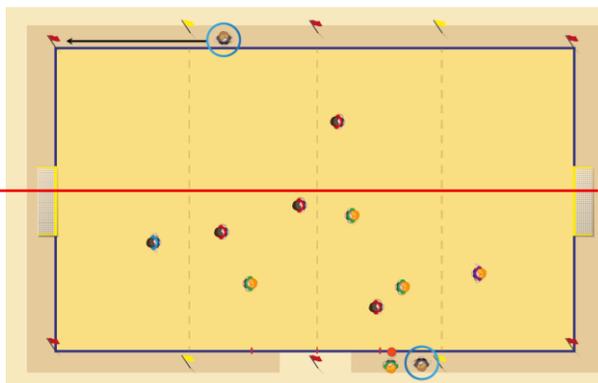


1011. キックイン/スローイン (1)

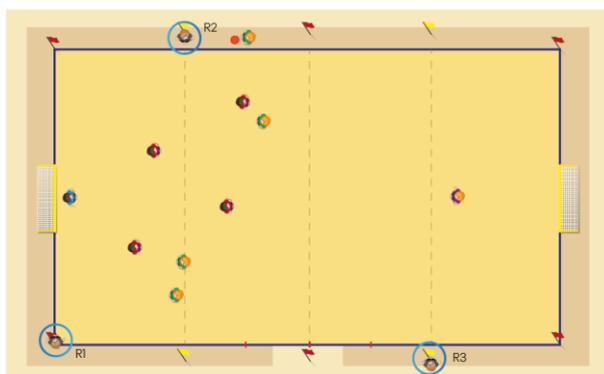
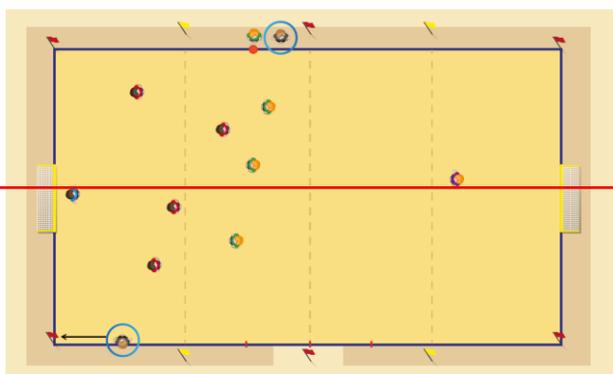
第3審判または第4審判（割り当てられている場合）は、主審・第2審判がプレーを追う最適なポジションをとれるように、キックインもしくはスローインを行うチームのペナルティエリアのところ、またはゴールラインにポジションをとる。



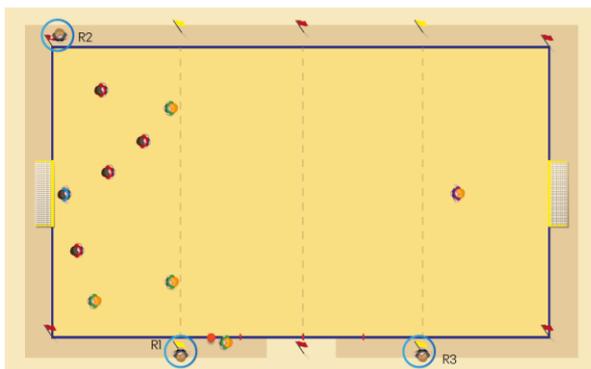
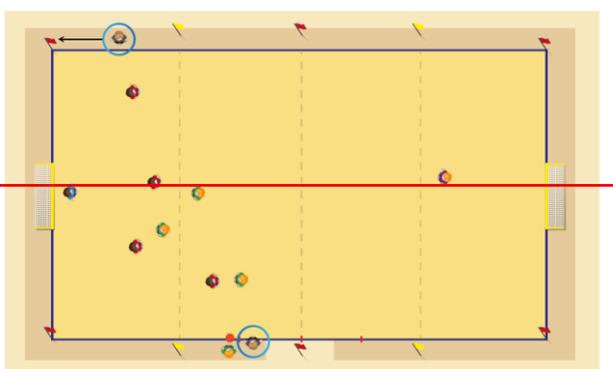
1112. キックイン/スローイン (2)



1213. キックイン/スローイン (3)

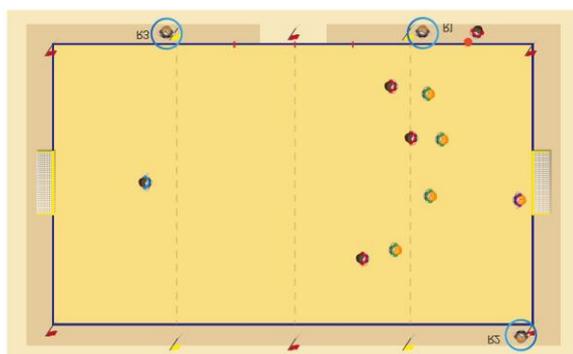
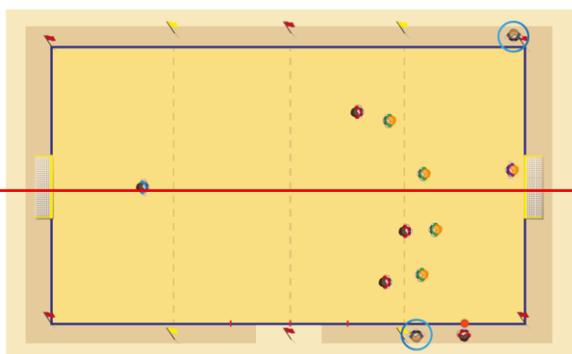


1314. キックイン/スローイン (4)



1415. キックイン/スローイン (5)

攻撃側チームによるキックインまたはスローインが仮定のコーナーアーク近くで行われるとき、キックインまたはスローインが行われる地点に近い主審・第2審判のいずれかが、攻撃側チームのゴールの方向に約5mの距離のところにポジションをとる。その審判は、そのポジションから、キックインまたはスローインの進め方によってキックインまたはスローインが行われるのか、また、守備側チームの競技者がキックインまたはスローインが行われる地点から少なくとも5m離れているかどうかをチェックする。もう一方の審判は、同じハーフの逆サイドで、タッチラインとゴールラインの交点のところにポジションをとり、ボールと競技者の行動について監視する。

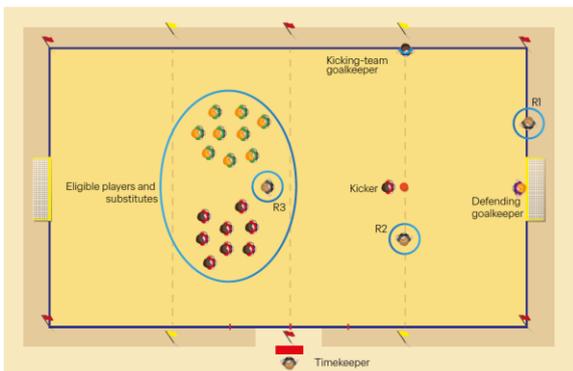
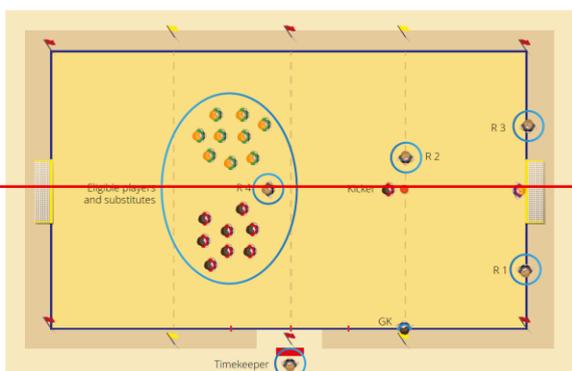


1516. 試合またはホームアンドアウェーの対戦の勝者を決定するためのPK戦（ペナルティーシュートアウト）

(…)

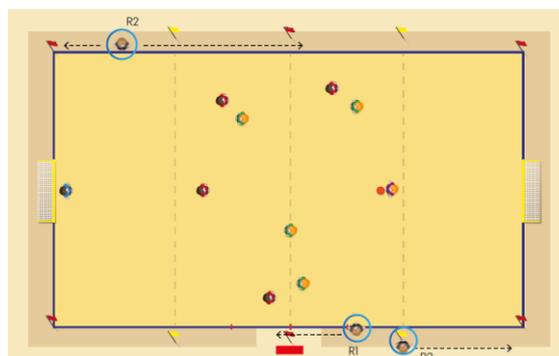
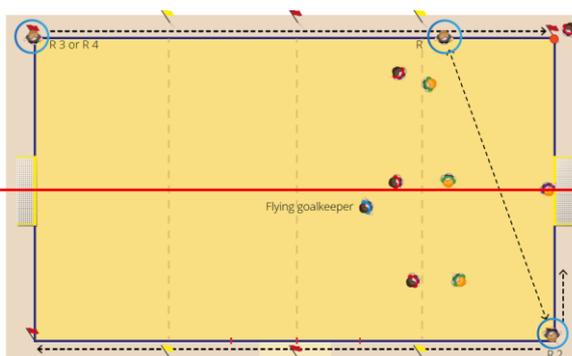
すべての審判員が、行われたキックについて、また、キックを行った競技者の数を記録する。

第4審判が割り当てられていない場合、第3審判は、ピッチの中央近くに立ち、両チームの残りの資格のある競技者および交代要員をコントロールする。



1718. チーム（両チームの場合を含む）がフラインダ・ゴールキーパーを用いてプレーしているときのボールインプレーのときの第3審判または第4審判のポジショニング

チームがフラインダ・ゴールキーパーを用いてプレーしているボールがインプレーのとき、第3審判または第4審判が、フラインダ・ゴールキーパーを用いて攻撃を行っているチームの仮想のペナルティエリアラインおよびゴールラインを監視する。フラインダ・ゴールキーパーを用いているチームの第3審判または第4審判が監視しているゴールにボールが入り得点となったならば、第3審判または第4審判は、所定のシグナルを用いて、主審・第2審判に得点があったことを伝える。



競技規則の解釈およびレフェリングに求められること

第6条 — その他の審判員

(…)

副審のシグナル (必須)

片方のチームのみならず両方のチームがフライング・ゴールキーパーを用いてプレーしているとき (パワープレー)、第3審判または第4審判 (割り当てられている場合) がゴールラインを監視していて、監視している方のゴールにボールが入った場合、第3審判または第4審判は片腕を上げる。その後、直ちにセンターマークの方向を指し、主審・第2審判に得点があったことを伝える。

第10条 — 試合結果の決定 (ならびに第13条 — フリーキックおよび第14条 — ペナルティーキック)

フリーキック、ペナルティーキックおよびPK戦 (ペナルティーシュートアウト) におけるダブルタッチについて、下記の進め方が適用される。

- キッカーが偶発的に両足で同時にボールをけた場合、またはキックした直後にボールがけっていない方の足または脚に触れた場合、
 - キックが成功した場合、キックは再び行われる。
 - キックが失敗した場合、キックが行われた位置もしくはピッチの中央から行われるフリーキックが与えられる (ただし、守備側チームが明らかに利益を受ける状況で主審・第2審判がアドバンテージを適用した場合を除く)、またはPK戦 (ペナルティーシュートアウト) の場合、キックは失敗と記録される。
- キッカーが意図的に両足で同時にボールをけた場合、またはボールが他の競技者に触れる前に意図的に続けて2度触れた場合、
 - キックが行われた位置もしくはピッチの中央から行われるフリーキックが与えられる (ただし、守備側チームが明らかに利益を受ける状況で主審・第2審判がアドバンテージを適用した場合を除く)、またはPK戦 (ペナルティーシュートアウト) の場合、キックは失敗として記録される。

第14条 — ペナルティーキック

進め方

(…)

- 相手競技者に対するファウルでない反則に対してペナルティーキックが与えられ、その後主審・第2審判がペナルティーキックを再び行うよう命じた場合、最初のキッカー以外の反則が行われたときにピッチにいた他の競技者であってもキックを行うことができる。

ビーチサッカー用語

ドロップボール (Dropped ball)

プレーを再開するための「中立的な」方法 — 主審・第2審判は、最後にボールに触れたチームの1人の競技者にボールをドロップする (ボールがペナルティーエリア内の場合、ゴールキーパーにドロップする)。ボールは、グラウンドに触れたときにインプレーとなる。反則が行われたのではなく、例えば、負傷やボールの欠陥などによりプレーが主審・第2審判によって停止されたときの再開方法 (第8条参照)。